

- 見性寺遺跡の発掘調査をおこないました！ P1～2
- ふるさと歴史たんけん隊 隊員募集!! …… P3
- 『寺谷瓦窯跡』の発掘調査報告書を刊行しましたP4
- コラム『平成から令和に変わって』木村弘之 P4

磐田市教育委員会教育部文化財課 令和元年6月1日発行

速報

けんしょうじ

見性寺遺跡の発掘調査をおこないました！



©磐田市

平成30年11月から31年3月にかけて、見付地区の見性寺遺跡の発掘調査を行いました。今回は、その際に出土した遺構（建物の跡等）や遺物についてご紹介します。



調査箇所周辺の様子（北から） 調査地赤○部分

見性寺遺跡と周辺環境

見性寺遺跡は磐田原台地南端にあり、名前のとおり、見付地区の古刹・瑞雲山見性寺一帯に位置します。これまでの調査で、縄文時代から中世までの遺物が出土しています。江戸時代には、見性寺も見付宿の一画でした。

また、この辺りの南は低湿地帯で、現在の今之浦地区に当たります。縄文時代には瀉湖（砂州により外海から隔てられた水域）を形成していたとされ、遺跡はその最奥に立地します。この低湿地帯は、古代には「大乃浦」という水域であったとも言われています。

縄文時代の道具たち

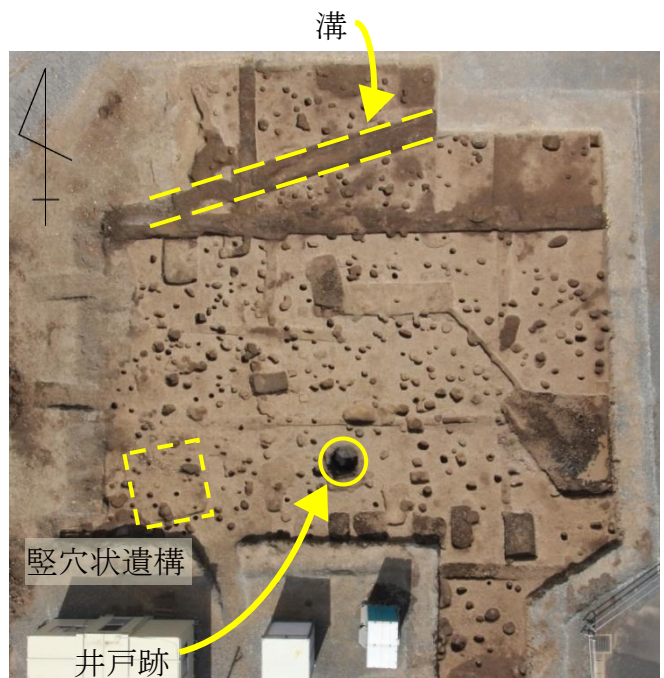
見性寺遺跡は、昭和 43・44 年の発掘調査で、縄文時代晩期を中心とした貝塚が築かれていたことがわかっています。今回の調査では、石鏃^{せきぞく}、石斧^{せきふ}、石錘^{せきすい}（漁網につけたおもり）など縄文時代の石器が出土しました。磐田市周辺ではとれない黒曜石で作られた石器も見つかりました。



石鏃
左 2 点黒曜石
石斧
左から打製石斧 2 点、磨製石斧 2 点、未完成の石斧
石錘

古代の遺構群

調査範囲から、およそ 750 基の柱穴、30 基以上の土坑（大きめの穴）、住居と思われる竪穴状遺構 2 基などが、右の写真のように高い密度で分布していました。調査区を横断するように直線的に延びる溝も見つかったことから、これらの溝により建物群が区画されていた可能性があります。遺構からは奈良・平安期の土器が多く出土し、古代を中心とした遺跡が広がっていることが判明しました。出土品は現在、整理作業（水洗いなど）をおこなっています。



調査区の空中写真（上が北）
建物の柱穴などが密集している様子



水洗いの様子
1 点 1 点、丁寧に出土品について土を落とします

中世の井戸跡

井戸跡を 2 基確認しました。出土土器から、これらは中世のものと考えられます。内 1 基には、方形に組まれた木枠が残っていました。水は生活に欠かせないことから、中世にも当地周辺で人々が生活していたことが分かります。

方形に組まれた木枠が残る中世の井戸跡
径・深さ共約 2m





©磐田市

ふるさと歴史たんけん隊 隊員募集!!

今年も、磐田市内の小学生を対象にふるさと歴史たんけん隊をおこないます！磐田の歴史を楽しく学べる講座を開講します。ふるさとの魅力を“見て”“聞いて”感じよう！

回	日時	場所	内容
1	8月2日(金) 9:30~11:30	埋蔵文化財センター 中央図書館	文化財課夏の企画展見学と 土器の拓本で「しおり」を作ろう！
2	8月20日(火) 9:30~11:30	埋蔵文化財センター	文化財課の仕事(市内から出土した 土器・瓦の洗いなど)を体験しよう！
3	9月7日(土) 9:30~11:30	埋蔵文化財センター	オリジナルの土器や埴輪を作って みよう！
4	11月23日(土・祝) 9:30~11:30	埋蔵文化財センター	自分だけの勾玉を作ろう！
5	12月7日(土) 9:30~11:30	新駅 ^{みくりや} 「御厨駅」周辺	新しく開業するJR御厨駅周辺の 歴史探検をしよう！

★対象：磐田市内の小学5・6年生 ★定員：20名(先着順)

★参加費：1,500円(全5回分)

★申込方法：QRコードまたは市ホームページ「電子申請」から申込

★受付期間：6月24日(月)～7月5日(金)まで

(ただし定員に達し次第、受付終了)

- ・日程・内容などの変更の可能性があります
- ・受付期間前にアクセスした場合、申込フォームは表示されません
- ・電子申請から申込が出来ない場合は電話にてお問合せください

【昨年の活動の様子】



企画展見学



土器づくり体験



勾玉づくり体験



QRコード(スマホ)



QRコード
(フィーチャーフォン
/ガラケー)



<申込・問合せ>

磐田市教育委員会文化財課 TEL 0538-32-9699 / FAX 0538-32-9764



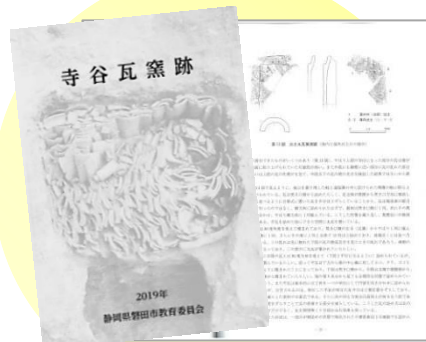
全国最多の瓦が出土！

『寺谷瓦窯跡』の発掘調査報告書を刊行しました

磐田市寺谷地内で見つかった寺谷瓦窯跡の発掘調査報告書をこのほど刊行しました。

寺谷瓦窯跡は、磐田原台地の斜面に築かれた平安時代の窯跡で、全国最多 574 枚の瓦が生焼けの状態で見られました。瓦が窯に詰められた状態で出土する例は、全国でも 8 例ほどしかなく、当時の瓦をどのように窯に詰められたかがわかる貴重な例です。出土した瓦は、遠江国分寺の築地塀などの屋根の修理用として焼かれたものであることがわかりました。

調査報告書は、磐田市内の図書館で閲覧できます。また、埋蔵文化財センターにて、1 冊 2,000 円で販売しています。郵送も可能です、下記までお問合せください。



A4 判、本文 104 ページ、写真図版 28 ページ（巻頭カラー4 ページ）

【問合せ先】 文化財課 TEL:0538-32-9699 / FAX:0538-32-9764

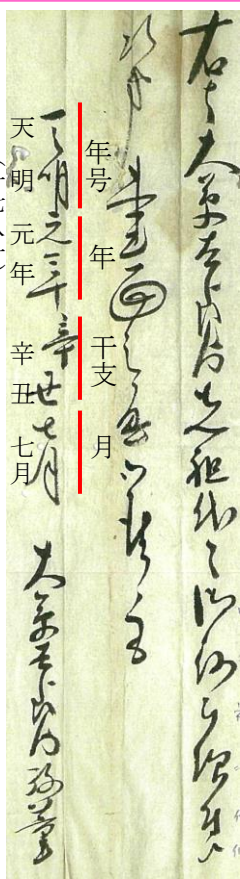
職員リレー コラム

平成から令和に変わって

木村弘之

平成から令和に変わって、昭和生まれの自分の年齢を数えるのに、またぞろ手間取ることとなってしまった。自分の歳を導き出すには、令和を昭和に換算し、生年から引き算している。「え〜と、今年は何年だから・・・。」という具合である。

中泉代官・大草太郎左衛門の先祖書。末尾に元号と干支が記されている。
(歴史文書館蔵)



近代以前は異変が起こる度に、その年は不吉だとして改元した。当時の人々は、どうやって年齢を数えていたのだろうとふと考えることがある。多くの古文書には、左の古文書のように元号と干支（十干十二支）が記されている。中でも十二支は年代を探る重要なキーワードである。元号が替わってもその年の十二支は替わらない。これで自分の歳がわかるというわけである。

昭和生まれの世代に「干支」と問えば、想起されるのが『丙午』である。昭和 41 年（1966）がそれで、「丙午生まれの女性は気性が激しすぎて夫を不幸にする」という迷信により、この年、出生率が低下したと言われている。過去の統計を遡ると、明治 39 年（1906）にも同じ現象が起きている。令和 7 年にはその丙午が訪れる。その頃には、こんな迷信を信じる、もしくはわかる世代はいないと思うが、何と云っても歴史は繰り返すのである。



歴史文書館イメージキャラクター「文字朗」

編集後記 今年のたんけん隊は、毎年大人気の土器づくり、勾玉づくりのほか、埋蔵文化財センターのお仕事体験など様々な体験をおこないます！ぜひご参加ください。

発行：磐田市教育委員会事務局教育部
文化財課(磐田市埋蔵文化財センター)
住所：〒438-0086 磐田市見付 3678-1
電話：0538-32-9699



©磐田市

◆WEB版は市HPから閲覧できます。磐田市 文化財だより

検索